

## 会務報告

雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	4
号	1
ページ	82-83
発行年	1985-06-30
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00007172/">http://id.nii.ac.jp/1145/00007172/</a>

## 会 務 報 告

- 1 昭和60年2月5日, 理事・監事会。
  - ① 3月2日行う今年度総会・学術大会の概要が承認された。
  - ② 本年度第2回卒業生の入会により, 会員名簿整理用コンピューターの導入について検討。
  - ③ 3月末定年退職予定の現職理事・監事の欠員補充の方法等について検討。
- 2 昭和60年3月2日(土) 第3回学術大会および昭和59年度総会が口腔外科学第1講座金沢正昭教授主宰のもとに開催され, 特別講演「総義歯の臨床」—— 歯科補綴学第1講座田村武教授 ——, および一般講演22題の研究発表が行われ, 質疑応答も活発で盛會裡に終了した。
- 3 総会は専務理事の全般的報告, 会則第10条の改正案(前号会務報告参照), 各委員会の所轄事項につき各

担当理事より詳細な報告がありそれぞれ承認された。

とくに別掲の59年度会計中間報告(昭59.4.1～昭60.2.28) およびこれに基づく昭和60年度予算案について承認された。なお3月末まで若干の収支の変動が見込まれ, これ以降に正規の決算報告書作成, 同監査については, 次回総会で議することを条件としている。

以上の事態より, 本学会の最終議決は総会にあるものの, 例年1～3月の間に総会・学術大会の開催状態から, 前号会務報告追記に記したように, 今後は本誌に各理事・監事会における決定事項は遅滞なく報告し, 会員より特別の異議申し立てのない場合は一応了承されたものとして事務を進め最終的に総会開催時に同意確認を頂く形で運営する方針について了解が得られた。会員各位の一層の御協力御理解を願う次第である。

### 昭和59年度会計中間報告書

(昭和59年4月1日～昭和60年2月28日) (単位:円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	1,651,000	学会開催費	220,000
継続会員		研究発表会開催費	20,000
正会員 135名分×5,000	675,000	招待講演会等補助金	200,000
準会員 37名分×3,000	111,000	印刷費	1,047,115
賛助会員 26名分×3,000	780,000	謝 金	400,900
新規会員		通 信 費	111,630
新卒者 3名分×5,000×3年	45,000	交 通 費	68,000
その他 8名分×5,000	40,000	備 品	24,600
入会金	28,000	事務用品費	132,227
バックナンバー分与収入	27,000	雑 費	1,615
広告料	532,500	次年度繰越金	3,100,902
投稿料	116,000	現金	28,468
受取利息	39,556	現金	3,012,734
別刷料	18,500	預 金	
前年度繰越金	2,694,433	郵便振替	59,700
合 計	5,106,989	合 計	5,106,989

### 昭 和 6 0 年 度 予 算 書

(昭和60年4月1日～昭和61年3月31日) (単位:円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	3,425,000	学会開催費	420,000
継続会員		研究発表会開催費	20,000
正会員 167名分×5,000	835,000	招待講演会等補助金	400,000
準会員 25名分×3,000	75,000	印刷費	2,200,000
賛助会員 26名分×30,000	780,000	謝 金	450,000
新規会員		通 信 費	250,000
新卒者 114名分×5,000×3年	1,710,000	交 通 費	100,000
その他 5名分×5,000	25,000	備 品	200,000
入会金	15,000	事務用品費	100,000
バックナンバー分与収入10冊×1,500	15,000	雑 費	20,000
広告料	450,000	次年度繰越金	3,300,000
投稿料	65,000	前年度繰越金	
受取利息	30,000	別刷料	40,000
前年度繰越金	3,000,000	合 計	7,040,000
別刷料	40,000		
合 計	7,040,000	合 計	7,040,000

## 4 昭和60年4月22日, 理事・監事会。

- ① 堀越専務理事, 秋貞・中村両監事の定年退職に伴う3役員の後任に前回選挙の結果を踏えて, 大野弘機教授を理事に, 安河内太郎・松本仁人両教授を監事に選任した。
- ② 今回定年退職された神澤康夫, 堀越達郎, 秋貞泰輔, 中村治雄, 田村俊吉5教授を名誉会員に推戴することを決定。
- ③ 後任会長には此度新任された富田喜内歯学部長を推薦, 後日承諾された。
- ④ 各新任役員の任期は先任者の残余期間(昭和61年7月31日まで)とすることにした。
- ⑤ 各役員の職務分担は以下の通りとした。  
会長 富田喜内, 事務理事 岡田泰紀, 庶務理事 井藤信義, 会計理事 猪股孝四郎, 企画理事 加藤熙, 金澤正昭, 編集理事 奥山富三, 市田篤郎, 大野弘機, 監事 安河内太郎, 松本仁人(表紙裏参照)
- ⑥ 会計年度は1月~12月の歴年度に合わせ, 翌年1月~3月の間に行う総会に報告出来るよう変更することとした。
- ⑦ 今年度の学術大会・総会の担当は歯科理工学および口腔病理学講座とし昭和61年2月頃を予定して行うこととした。
- ⑧ 本誌のISSN(国際標準逐次刊行物番号)は0910-9722と決定した。

## 5 昭和60年6月10日, 理事・監事会。

富田新会長の就任挨拶後, 会務分担につき再確認後, 本年度事業計画について協議を行った。

- ① 臨時講演会開催について, 此度来札される下記外国歯科大学教授2名の方による講演会が承認され, 時間的關係より会員通知は参集可能な道内の方のみに限る方法も了承された。

A: 昭和60年6月5日 Dr. J. J. Pindborg 教授  
(デンマーク王立歯科大学 病理)

「Current Concept of Oral Precancer」  
於北海道歯科医師会館 P.M. 4:00

(なお同教授は午前本学来訪, 第5学年生を対象に「Ealy Diagnosis of Oral Cancer」と題し特別講義を行い, 正午より札幌大塚田教授, 本学教授・助教授と昼食を共にし会談され, 本学会主催の講演会には会員のみならず他大学・病理学・口腔外科学関係者多数の聴講があり極めて盛大であった。

B: 昭和60年7月15日, 岡部徹教授

(米国バイラー歯科大学 理工)「アマルガム合金中の水銀の挙動」於本学472講義室  
P.M. 3:00

(本講演は第5学年生の特別講義の一つとし, その他多数の本学教職員会員の参加があり, 講演には主題のほかバイラー大学・アメリカ生活などについて美しいスライドで御紹介もあり多大の感銘を与えた。)

## ② 定期講演会開催について

毎年定例的に秋を目途に行うこととし, 昨年行った10周年記念講演会に準ずる型式をとり, かつ同窓会員の多数参加出来る期日, 演題で行うことが検討され, 演者について奥山理事より予定者の推薦があった。

③ 昭和60年6月16日逝去された渡辺享本学初代理事長を名誉会員に推薦することが決定された。

④ 59年度決算の監査は新任監事が行うことが了承された。

⑤ 前回理事会において決定された会計年度の変更に伴い60年度会計は本年12月末に終り, 同時に予算案についてもこれを踏えて執行することが決定された。